



年間聖句

「あなたに平和、あなたの家に平和、
あなたのものすべてに平和がありますように。」 サムエル記上 25章6節

ウクライナに平和を

毎日流れてくる信じがたい戦争の悲惨な映像やニュースを見るだけでも、私たちの心は傷ついています。その場で生活している人たち、生活が奪われた人たちの悲しみや理不尽な苦しみはどれほどのものでしょうか。私たちは、ロシアとウクライナの対立を議論するのではなく、そこに苦しみ、助けを求めている人たちに寄り添い、支援することに重きを置いています。「ウクライナに平和を」という祈りは、「日本にいるウクライナの人々に平和を」という祈りへと広がりつつあります。

日本YMCA同盟は、世界YMCAのネットワークや駐日ウクライナ大使館と協力して、ウクライナから日本に避難する人たちのビザの取得や渡航支援、日本語学習支援など、日本での生活サポートに取り組んでいます。神戸YMCAも「日本にいるウクライナの人々に平和を」という祈りをともにしてまいります。ウクライナの平和のために皆さまのご協力、ご支援をお願いいたします。

神戸YMCA 会長 中道基夫
総主事 井上真二

日本YMCA中期計画と神戸YMCA

中道基夫（神戸YMCA会長、日本YMCA同盟中期計画策定委員長）

YMCAは様々なことに取り組んでいるために、いったい何をやっている団体なのかよくわからないと言われることがあります。そこで、日本のYMCAはブランディングに取り組み、新しいロゴと共にブランドコンセプトを社会に発表しました。神戸YMCAもこのブランドコンセプトに則り「互いを認め合い、高め合う『ポジティブネット』のある豊かな社会を創る」ことを私たちが果たすべき使命として掲げ、順調に進んできました。

ところが、世界的なパンデミックは世界に不安と混乱をもたらし、YMCAの経営にも未曾有の打撃を与えました。この厳しい状況の中で、日本YMCA同盟は日本YMCA中期計画(2021-2023)を掲げ、単に経営を建て直すだけではなく、YMCAが持っている力を回復し、YMCAが目指すべき『ポジティブネット』のある豊かな社会を創るためにはいったい何をしなければならないのかを示すために、次の5つのことを提唱しました。

1. Positive well-being
2. Youth Empowerment
3. Technology for social inclusion & diversity
4. Partnership
5. Change Agent

この5つの英語が何を意味しているのか、神戸YMCAに則して考えてみましょう。

1. Positive well-being(ポジティブ ウェル・ビーイング)

YMCAの使命とは何ですかと問われると、「人が健康になること、幸せになること」と言えます。健康とは、病気ではないことだけではなく、より良く生き、いきいきとしている状態です。それをこれまではWellness(ウェルネス)と表現してきました。そこから一歩進んだ考えがWell-being(ウェル・ビーイング)です。Well-beingとは、良い身体の状態や生き方だけではなく、また、自分がハッピーであるだけではなく、周りの人とのつながりを感じ、自分の人生に意味を見だし、社会や他者が幸福であってこそ自分も幸せであるという考えです。社会が健康であってこそ、私も健康でいられる。それはコロナ禍で私たちは嫌というほど感じたのではないのでしょうか。そして、ウクライナの状況を見ると、私たちのところには砲撃はないけれど、決して平和だとは言えません。Well-beingを実現するために、神戸YMCAは「みつかる。つながる。よくなっていく。」という体験を人々に提供するとともに、神戸YMCAが拠点となり、ポジティブネットのある社会を創っていくことを目指しています。

そして、そういう社会は決して不可能ではない、どんな状況にあっても「今日よりも良くなる明日」を信じることができるポジティブな思いを人々に伝えていきたいです。それが、Positive well-being(ポジティブ ウェル・ビーイング)です。



2. Youth Empowerment(ユース・エンパワーメント)

神戸YMCAは、若者たち(ユース)がポジティブな思いに導かれ、自分自身と社会が共に幸福になるんだという希望を持ってほしいと願っています。誰かがやってくれるのではなく、自分たちに社会を変えていく力があり、自分たちが社会に関わることができるという経験を得てほしいのです。そのためには、若者たちが持っている力、発想、価値観を引き出されること(エンパワーメント)が必要です。

神戸YMCAが例年行ってきた行事を今年も滞りなく行うこと(慣例行事遂行型YMCA)に安住するのではなく、若者たちが力を発揮し、今自分たちが必要だと感じる活動を展開できるように、時代の変化に応じて神戸YMCA自身が変わっていくこと(適応型・問題解決型YMCA)が求められています。

3. Technology for social inclusion & diversity
(テクノロジー フォア ソーシャル・インクルージョン&ダイバーシティ)

コロナ禍によってあらゆるものがオンライン化され、3年前には考えられなかったコミュニケーション手段が日常生活の中に入ってきました。最初は集まらない状況の中で緊急避難的に行ってきたオンラインコミュニケーションですが、

これによってこれまで催し物や会議に出席することができなかった人たちが参加できる可能性が開かれてきました。もちろん、対面で出会い、息づかいを感じて交わることに勝るものはありません。しかし、新しいコミュニケーション手段によって、お金や時間をかけなくても、家にいながらでも、出会い、話し合い、交わる可能性が生まれてきたわけです。

神戸YMCAでは、この技術(テクノロジー)を誰もが、垣根なく、互いの違いを尊重し合う社会(ソーシャル・インクルージョン&ダイバーシティ)のために積極的に活用することを模索しています。緊急避難的に用いていた技術をもっと有効に使うことによって、新しいコミュニティの可能性を開いていくことができます。対面とオンラインを対立的に考えるのではなく、多様なYMCAの活動のあり方として活用していきたいです。

4.Partnership(パートナーシップ)

現代のような複雑に入り組んだ社会の中では、Positive well-beingもYouth Empowermentも、そしてポジティブネットの拡張も、神戸YMCA単体で行えるものではありません。神戸YMCAがその使命を遂行するためには、外部の団体と協力し、お互いの力、得意分野を出しあって、私たちの社会の問題を解決するPartnership(パートナーシップ)が必要です。

たとえば、神戸YMCAはAmazonと協力して、中学生・高校生向けのプログラミング教室を開催しました。これは、これからの社会の中で必要となってくるスキルを学び、若者たちが自分の特性を活かすことができる将来の目標を見いだすプロジェクトです。神戸YMCAにはAmazonのように数多くのコンピュータもプログラミングを教えるスキルもありません。しかし若者を集め、またこのような学びの機会に触れることの少ない人々と繋がり、催し物を企画する実績があります。この2つの力が結びつくことによってYouth Empowermentを実現することができます。

様々な企業、行政、NPOの強みや特性と、YMCAの強みや特性が結びついて、具体的な問題解決のための取り組みを推進したいと願っています。従来のように、セミナーを開いて問題について学ぶだけではなく、具体的に社会の問題を解決する、しかもスピード感を持ってそれに取り組むためには、こうしたPartnershipが必要です。

5.Change Agent(チェンジ エージェント)

Change Agentは、生きづらい世界を変革するコースリーダーを育てようとする世界のYMCAの取り組みです。世界的なパンデミック、地球規模の気候変動、そ



して軍事侵攻という出来事を通して、世界は本当に狭く、互いに関係し合っていることを実感しました。世界のどこかで何か重大なことが起こると、それがたちまち世界規模に拡散します。まさに、グローバルな課題は、ローカルな課題でもあり、パーソナルな領域にまで影響してきます。

これはネガティブな状況ですが、裏返せば、世界が協力すれば世界を変えることができるというポジティブな可能性でもあります。さらに言い換えると、互いに協力しなければ問題は解決しません。世界のYMCAと繋がる神戸YMCAは、そのような課題と可能性を自覚し、世界を変えるChange Agentを育てていこうとしています。自分が変われば、地域・社会が変わる。地域・社会が変われば、世界が変わる。大人が若者のために社会を変えてあげるのではなく、若者が自らの手で社会を変えることができるという希望と経験を得ることができるYMCA、社会でありたいと願っています。

日本YMCA中期計画(2021-2023)は、この3年間で目指すべき数値目標や、業績を回復するための具体的な施策を示しているわけではありません。また、5つの項目は新しいYMCAの姿を示しているわけでもありません。YMCAが長年培ってきたもの、YMCAの本質的な力、YMCAらしさをもう一度思い出させてくれるものです。これこそがYMCAが持っている光です。先が見えない不安という世界的な闇の中で、YMCAは光を灯す使命と力を持っています。今こそ、このYMCAのコアコンピタンス(核となる力)を発揮すべき時です。2022年の神戸YMCAも、この日本YMCA中期計画(2021-2023)と共に進んでいきたいと願っています。

2022年度神戸YMCA大会(総会)のお知らせ

神戸YMCAに関わる人たちが一堂に集まり、世代を超え、これからの歩みを確認、将来に向け語り合い、楽しく喜びがあふれる1日とすることを願い、神戸YMCA大会を行ないます。

総会構成員および維持会員の皆さまには別途、ご案内をお送りいたします。

日時：2022年6月25日(土)午後

・会場参加型とWEB参加型とのハイブリッドでの開催。

・新型コロナウイルスの感染状況により、実施形式を変更させていただく場合があります。

灯台

Light House

No.34

総主事 井上 真二



夏が来れば思い出す～その3～

1971年から2002年までの約30年間、淡路島の沼島でキャンプ場の運営をしていたこと、駐在ディレクターの一番の心配事はキャンパーやリーダーの病気や怪我、台風であったこと、そしてキャンプ場の管理をしてくださっていた奥田さんのことを「その1、その2」で触れました。島民であった奥田さんは石造り職人さんで、いくつもの逸話や伝説があり、跡地は企業の保養所になっていますが、見事な石垣が現存しています。キャンプ中、約100名の生活で出る毎日の生ゴミ、日々の草刈りで積み上げられた雑草の山、これら大量のゴミを風の流を読みながら適した時刻を見計らい、グラウンドの片隅でマッチ1本で焼いていくという達人の業はどうていマネできるものではありません。

1989年冬、精神的支柱でもあった奥田さんが亡くなりました。次年度の4月からキャンプ長を担当することになった私が最初にしたことは、焼却炉の設置と草刈り機の購入でした。1トンを超える焼却炉を船(正栄丸)から砂浜

に下ろした後、スロープに引き上げるという業者の計画が難航し、大幅に時間超過したため潮が満ちてきて、急遽正栄丸に再出動を願い、ウインチでスロープに上げてもらい水没を免れ、その後無事設置できました。広大なキャンプ場における草刈りは体力と時間を要するため、リーダーたちと協議を重ねた上で、1台の草刈機の購入を決定しました。いざキャンプがスタートすると焼却炉は不可欠で、草刈り機も台数を増すことになり、奥田さんの働きの大きさを痛感しました。夏期全キャンプを支え続けてくださり、私たちが知らなかったオフ(冬)シーズンも一人でキャンプ場の手入れをし、守ってくださっていた奥田さんに、今一度、深く感謝を捧げたいと思います。

神戸YMCAでは感染症対策をとりながら、夏のプログラムを行います。ご参加くださる皆さまの協力も得ながら、健康や安全が守られ成長の場となり、神様との出会いの場となりますように願っています。



キャンプ場の船(通称、和船)を運ぶ方向を指さす奥田さん(左端)と、リーダーたち

R E P O R T

神戸YMCAちとせ幼稚園

互いに育ち合うこどもたち

神戸YMCAちとせ幼稚園は、3・4・5歳児の幼保連携型認定こども園ですが、2歳児クラスのこどもたちや学童保育のこどもたちが同じ施設で過ごしています。生活の時間帯は違いますが「2歳児から12歳までのこどもたちが共に生活をしている施設」と言えます。

コロナ禍で以前のように交流できないこともあります。お互いに刺激を受け、育ち合っているな...と感じさせられる場面がたくさんあります。小さなこどもたちがお兄さんお姉さんの姿を見て、自然と「わ～！すごいな！」「かっこいいな」と憧れの気持ちを抱いたり、お兄さんお姉さんが小さなこどもたちの姿を見て「おいで～！一緒に

にしよう！」「どうしたん？」「手伝ったるか？」とかがみこんで目を合わせ、声をかけている姿も見られます。

写真は4月の午後、幼稚園のこどもたちが楽しんでいた玉入れに、学童の1年生も加わって始まった、幼稚園対学童の玉入れ大会です。お互いに負けじと競うことで新年度の緊張がちょっとほどけて「楽しかったな！」「また一緒に遊ぼうね！」と自然と声が沸き上がる、楽しい交流のひとつとなりました。

これからも異年齢のこどもたちが共に過ごし、互いに育ち合うことのできる環境づくりを大切にしていきたいと思えます。



YMCA西神戸学童保育クラブ

新しい季節の始まり

神戸学園都市にある西神戸YMCA学園都市会館には、小学生が放課後を過ごす学童保育クラブがあります。地域のニーズに応えつつ2000年に始まったこのクラブに、2022年度は154名のこどもたちが集っています。

「YMCAではこどもを預かりません」と、入会オリエンテーションの際に保護者の皆さまにお話をします。最初は「えっ？」という表情をされますが、お話を進めるうちに納得してくださいます。YMCAの学童保育は、こどもたちが主体的に遊んだり、自分た

ちの空間を仲間とともに作りあげたりしていくことを大切にしています。そして、こどもたちに寄り添うリーダーたちもそのことを大切に、同じ目線で考え、日々を過ごしています。「預かる場」ではなく、「こどもたちが生き生きと成長する場」でありたいのです。

新しい季節の始まりに、こどもたちとともに胸を躍らせながら、互いに喜び合うことのできる1年を歩んでまいりたいと思えます。



神戸市立西体育館

リニューアルオープンしました！

西体育館は、空調設備および床改修等の工事を終え、3月より競技場の利用を再開しました。昨年6月～9月末まで2階体育室の工事が、昨年10月～今年2月末まで1階競技場の工事があり、それぞれ工事期間中は利用できませんでした。3月より、ひさしぶりにフルオープンしています。

競技場の利用が再開し、バドミントン、バレーボール、バスケットボールなどの利用者さんたちが帰ってきて、体育館に活気が戻ってきました。また、エアロビクスや卓球、こどもの体操等、競技場で開講する教室も4月から再開しています。新しい床はクッションの効い

た素材で、これまでと同じ動きをしても以前とは感触が違ふと感じることもあります。リニューアルした施設で、利用者の皆さまには、これまで以上にスポーツ・運動を楽しんでいただけたらと思います。設備面だけでなく、利用者さんを迎える私たちスタッフの気持ちも新たに、これからも地域の皆さまに、気持ちよく過ごすことのできる体育館だと感じていただけるよう、努めたいと思えます。



Amazon Cyber Robotics Challenge プログラミングの楽しさを！

Amazonが日本YMCA同盟と協働する新しい試みとして「Amazon Cyber Robotics Challenge」を開始しました。キャリア教育が進む中、児童養護施設のこどもたちがプログラミング体験をし、「テクノロジーで誰もが世界を変えられる」ということを感じるきっかけになればというプログラムです。

3月29日(火)、神戸真生塾を会場に、関西圏初の企画として神戸YMCAが実施しました。プログラム実施にあたり、こどもたちのメンターとして神戸電子専門学校

の協力を得ることができました。こどもたちは非常に積極的に取り組み、実施時間中、集中してプログラムに参加していました。

こどもたちからは「もっと続けたかった！」「最後のレベルまで進みたかった！」という声があり、施設長も「これからの時代の中でこのようなスキルが重要になってくると感じた」と話していました。今後も継続的な企画実施が求められるプログラムだと実感するものでした。

協力：日本YMCA同盟、神戸電子専門学校



キャンプ連載「私たちはどこから来て、どこへ行くのか？」

〈最終回〉 森の小道を歩く

キャンプディレクター
阪田 晃一

これまで13回に渡ってお届けした連載も、今回で最終回となりました。これまでお付き合いいただきありがとうございました。

この原稿を初夏の余島で書いています。「私たちはどこから来て、どこへ行くのか？」そんなことを考えながら、ひさしぶりに余島の森を歩きました。

僕はよく森の小道を作ります。作ると言っても獣道を拝借します。目の高さの枝は払って、それ以外の枝葉を残します。トンネルのようになった森の小道を、こどもたちが走り抜ける姿が浮かび上がってきます。

森に誘われて歩いていると、集会場に出ました。時折吹く風が木々を揺らします。傾き始めた太陽が海を照らしきらきらと輝いて見えます。カウンスルファイヤーを囲む人々の姿が浮かび上がり、祖先の声が聞こえてきます。

海の匂いに引き寄せられて南の浜に降りると、静かな海が広がっていました。遠く人類が火と道具を使って生きはじめた時の姿が、悠久の歴史とともに押し寄せてきます。

これからどこへ行くのか？それは感情の旅です。人々は今、理性によってこの世界を生きています。理性にだけ頼った人類は、これまで何度も破滅へと向かっていきました。

だから僕たちはこれから、理性の外に出る旅をしなければなりません。

なんの必然性もないのに、目の前には美しい島々が浮かんでいます。やがて別れることを知っているのに人々は出会います。そしていつか死ぬことは免れないのに、僕たちは生きています。

なんでこんな世界が存在しているんだろう。なぜこの世界の中に、こんな社会の営みがあるんだろう。それは偶然の重なりとしか思えないなにかなのです。

森の中で目が覚めると、鳥たちの囀りがまるで合唱のように木霊します。それは言葉に充てがうことのできないなにかです。こうした世界からの訪れによって、つまり理性では規定できないなにかに答えることで、僕たちは生きています。

だから僕は今日も、万物の力の流れに身を委ねて、森の小道を歩きます。(完)

ウクライナ緊急支援募金

不安の中にいる人々が少しでも安心して過ごせるよう、一人ひとりの命が大切に守られるようご協力をお願いいたします。

＜募金の使途＞

- ◆ウクライナYMCAが行う、爆撃地や攻撃を受ける可能性のある居住地域から国内避難する人々への支援活動
- ◆ウクライナ近隣諸国のYMCAが行う、国外に避難するウクライナの人々への緊急生活支援

＜募金方法＞

- ◆お近くのYMCAを通して、または下記へご送金ください。
- ◆銀行振込で募金
三井住友銀行 三宮支店
普通 3136953 神戸YMCA
※振込人氏名の前に「ウ」と明記ください。

- ◆寄附サイトで募金(クレジット決済あり)
<https://kifu-kobeymca.org/>

寄附サイト



募金は日本YMCA同盟を通して、世界YMCA同盟に送金いたします。

上記プロジェクトは、日本YMCA同盟が加盟する世界YMCA同盟と、ヨーロッパYMCA同盟のもと行われています。

2021年度YMCA国際協力募金 報告・感謝

皆さまから寄せられました募金は、ユース育成や平和教育、災害や国の情勢で困難の中にある方々のために用いられます。

【支 出】	
日本YMCA同盟拠出金	350,000
東南アジア農村支援(ラオス)	100,000
東南アジアこども支援(口唇口蓋裂プロジェクト)	30,000
定住外国人子ども奨学金	180,000
国際活動リーダーシップ養成	48,144
神戸YMCA国際奨学金	240,000
オリーブの木/パレスチナ・ガザ支援	68,000
ウクライナ緊急支援募金	180,000
ミャンマー支援募金	150,000
CODE・PHD協会支援	100,000
開発・国際理解教育	98,397
事務局経費	79,598
計	1,624,139
【収 入】	
一般募金	1,624,139
指定募金	0
計	1,624,139

ご協力に感謝申し上げます。

神戸YMCAの使命 (日本YMCA基本原則)

- イエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学びます。
- すべての人びとの全人的な成長を願い、いのちを守り育てます。
- 人権を守り、喜びと痛みを分かちあう社会をめざします。
- 世界の人びとと共に、平和の実現に努めます。

神戸YMCAの願い(神戸YMCA中期計画2020)

すべての「いのち」が光り輝くように、これを守り育てます。そのための活動に世代を超えた市民の参加を求め、その活動を通して新しいコミュニティを創造します。

ワイズコーナー

神戸YMCAと共に歩む ワイズメンズクラブ六甲部

六甲部部長 大野智恵さん
(神戸ポートワイズメンズクラブ)

2022年、ワイズメンズクラブ国際協会は創立100周年を迎えました。記念すべき年に100周年をお祝いし、力を合わせて発展していきたいという願いを込めて、昨年11月23日のチャリティーラン当日に記念植樹を行いました。

長年にわたり神戸YMCAとの協働で行っている「神戸YMCAインターナショナル・チャリティーラン」の開催場所であるしあわせの村で植樹を行えたことは、大変意義のあることと思います。また、今年2月23日には、神戸YMCA近くの生田川公園にも植樹を行いました。これからも神戸YMCAの活動を支え、手を携えて地域社会に貢献するワイズメンズクラブでありたいと願っています。



しあわせの村で記念植樹

感謝・寄附

(敬称略、順不同) (前号掲載以降～4/16現在)

寄附

上杉 徹、谷川 朋、ささき せい、原 寛、ワイズメンズクラブ国際協会西日本区六甲部

学生生活支援募金

芦屋ワイズメンズクラブ、宝塚ワイズメンズクラブ

国際協力募金

RONNI ALEXANDER、熊谷 親啓、山ノ井 景子、社会福祉法人頌栄会認定こども園西鈴蘭台頌栄保育園、神戸中ロタリークラブ、芦屋ワイズメンズクラブ、社会福祉法人聖ミカエル福祉会聖ミカエル北野園

ウクライナ緊急支援募金

香川 真二、浅井 まゆみ、南出 和余、シライシ チエ、山口 政紀、館 忠之、館 康子、フカミ コズエ、功力 正士、大津 創、権藤 みか、若林 治樹、柴口 純子、中田 杉子、井上 真二、財部 仁子、井上 伸子、神野 敬子、横山 恵子、能美 美登利、松井 多美子、オカダイソコ、河合 睦文、舛永 知子、あかしこども広場職員有志、奥田 みなみ、山本 洋子、中村 直子、進藤 啓介、井出 浩、井出 富光子、学校法人松蔭女子学院松蔭中学校・高等学校、社会福祉法人聖ミカエル福祉会聖ミカエル北野園、神戸ポートワイズメンズクラブ、日本キリスト教団兵庫松本通教会、日本基督教団神戸愛生伝道所、ワイズメンズクラブ国際協会西日本区六甲部

この他にも、多数の募金・寄附をいただいております。感謝をもってご報告します。

ファミリーウエルネスセンター
ランゲージセンター
専門学校
西宮YMCA
余島野外活動センター
デイキャンプ&コミュニティサービス(兼キャンプ事務局)
国際・奉仕センター
ウエルネスセンター学園都市
西神戸YMCA
神戸YMCA高等学院
YMCAおひさま

☎078(241)7202
☎078(241)7204
☎078(241)7203
☎0798(35)5987
☎0879(62)2241
☎078(241)7216
☎078(241)7204
☎078(793)7401
☎078(793)7402
☎078(793)7435
☎078(793)9077

西神南YMCA
須磨YMCA
YMCA保育園
西宮YMCA保育園
西神戸YMCA保育園
神戸学園都市YMCAこども園
神戸YMCAちとせ幼稚園
YMCAちとせ保育ルーム
西神戸YMCA幼稚園
西宮つとがわYMCA保育園
あかしこども広場
学園都市YMCA保育ルーム

☎078(993)1560
☎078(734)0183
☎078(794)3901
☎0798(35)5992
☎078(792)1011
☎078(791)2955
☎078(732)3542
☎078(786)3821
☎078(997)7705
☎0798(26)1016
☎078(918)6355
☎078(794)3045

